

研修報告書No.2

所 属：昭和大学病院 研修医
研修先：医療法人聖真会 渭南病院
 特定医療法人長生会 大井田病院
 四万十町国民健康保険大正診療所

渭南病院、大井田病院、大正診療所で一ヶ月間研修させていただきましたことを以下に報告いたします。

三つの施設で外来診療や病棟業務を始めとして、訪問診療や訪問看護、住宅評価、小児の検診、中学校検診、保健所での研修など多岐にわたる経験を通して、様々な職種が関わり支え合う地域医療の姿を感じ取ることができました。

特に強く感じたのは、日々高齢化が進み医療の需要が高まる反面、限られた医療資源（もの、人）の中でどのように医療を提供していくかということです。普段の大学病院での研修では、多くの医療従事者がいて、多くの医療物資が揃っています。その中で医療行為を施す際には選択の余地が与えられていることがほとんどで、また病院に勤める様々な職種の人にはそれぞれ決められた業務があり自分の担当する業務をそれぞれが行う、というのが当たり前だと思っていました。しかし、必要としている医療物資が院内になかったり、職種の幅を超えてそれぞれが患者さんそして地域のために働く必要があったりすることが、決して珍しいことではないということを強く感じました。これは、日々高齢化が進む日本において、いずれ都市部でも起こりうることであること、そして、いつ起こるかわからない災害時も同様の状態であるということを意識しなければならないと思います。

また、これに加え私が研修させていただいた両地域の災害対策への意識の高さも印象的でした。ただでさえ限られている医療資源が、災害時にはさらにその需要が高まり供給が困難になるということが、院内で働くすべての方の共通認識としてあるように感じました。土佐清水市、宿毛市という海に囲まれた土地柄、大地震発生時に津波が来ることが予想されており、その際普段の医療に加え災害拠点としてどうあるべきかそれぞれが独自の対策を持っていました。私自身、静岡県で生まれ育ち、いずれ地震が来ると言われてきましたがその対策について現実的なものとして考えてこなかったことに気がつきました。それは今現在働いている東京でもそうでした。大地震がきたら？災害が起こったら？被害が大きいことは何となく理解していたつもりでしたが、自分がどう動くべきか、病院がどう機能するのか全く考えたことすらありませんでした。どこかで「何とかなる」「誰かが指示してくれる」と思っていたように感じます。しかし、そんなことは一切なく自分が意思を持って動かなくはいけないということを両地域から学びました。

また、一ヶ月の研修の中では地域医療についてだけでなく、高知県そのものの良さをたくさん経験させていただいたことも大切な思い出です。四万十川や足摺岬などガイドブックに載っているような観光スポットはもちろんですが、何より高知県の方々の温かさに触れ、院内でも院外でも充実した時間を過ごさせていただいたことが、一番嬉しかったです。たった一ヶ月でしたが、密度の濃い毎日でした。是非また高知県を訪れたいと強く思って

います。

最後になりましたが、渭南病院、大井田病院、大正診療所のスタッフの方々、そして地域の皆様、本当にありがとうございました。これを以て報告を終了とさせていただきます。